

《記者発表機関》

中部地方整備局、岐阜県、愛知県、三重県、名古屋市で同時発表

《配布先》

中部地方整備局記者クラブ、岐阜県政記者クラブ、愛知県政記者クラブ

三重県県政記者クラブ、三重県第二県政記者クラブ、名古屋市政記者クラブ

平成 25 年 8 月 26 日

パーソントリップ調査からみる中京都市圏における人の動き

～第 5 回中京都市圏パーソントリップ実態調査結果～

中京都市圏総合都市交通計画協議会[※]では、平成 23 年 10 月から 11 月にかけて「人の動き」を調査する「中京都市圏パーソントリップ調査（交通実態調査）」を実施し、約 14 万世帯、約 31 万人という大変多くの方から調査票を返送いただきました。調査対象者の皆様にはご協力いただき、誠にありがとうございました。

この度、調査データの集計結果の概要がまとまりましたのでお知らせします。

《集計結果概要》

①都市圏全体の総移動量が、調査を開始した昭和 46 年以降で初めて減少

前回（平成 13 年）の調査結果と比較した特徴は以下のとおりです

- ・ 1 人あたりの移動量は減少傾向。要因は 20～40 歳代の移動量の減少
- ・ 目的別の移動量は業務目的が減少し、自由目的が増加する傾向
- ・ 交通手段では自動車利用割合が他の都市圏（東京都市圏、京阪神都市圏）が低下する中、中京都市圏は増加する傾向（交通手段のうち自動車利用割合は約 6 割を占める）

②愛知県内において日曜日の人の動きを初めて調査

- ・ 日曜日の外出者率は平日より低いものの、外出者の移動量は平日より多い

＜調査データの提供＞

第 5 回パーソントリップ調査現況データの提供は 8 月 26 日より開始します。

提供方法等の詳細については、中京都市圏総合都市交通計画協議会ホームページをご覧ください。

ホームページアドレス：<http://www.cbr.mlit.go.jp/kikaku/chukyo-pt/index.html>

※「中京都市圏総合都市交通計画協議会」は、国土交通省、岐阜県、愛知県、三重県、名古屋市等により構成する組織で、昭和 46 年の発足以来、40 年以上にわたって活動しています。

【パーソントリップ調査とは】

パーソントリップ調査（パーソン=人、トリップ=移動）とは、皆様の1日の移動について、「年齢などの個人属性」「出発地・目的地」「移動目的」「移動時刻」「交通手段」などを調査し、人の1日のすべての移動量を捉えるものです。

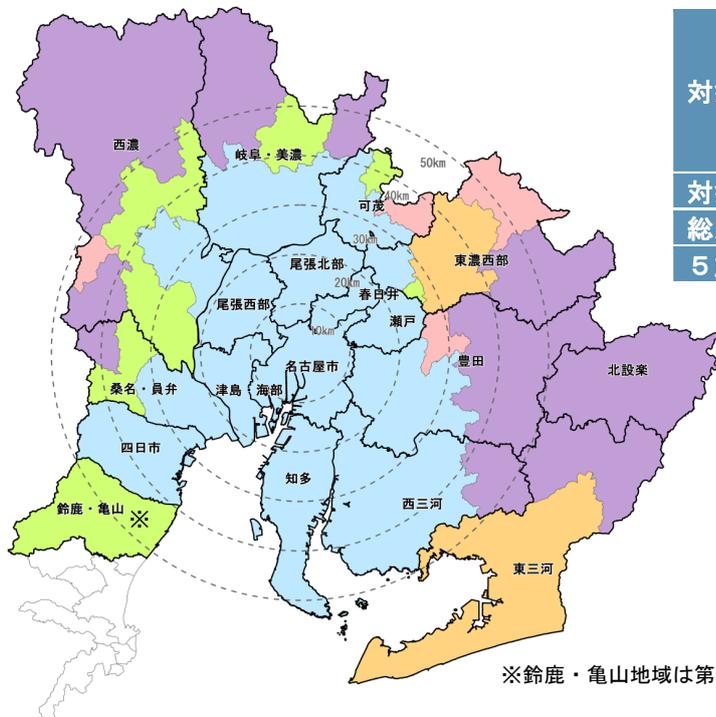
中京都市圏パーソントリップ調査は、昭和46年以降10年毎に実施しており、今回調査は5回目の調査を平成23年に実施しました。引き続き、この調査データをもとに、中京都市圏における望ましい交通のあり方などを検討してまいります。

パーソントリップ調査は都市圏の人の移動を総合的に把握する唯一の調査であり、交通だけでなく、防災、環境分野など様々な分野に活用されています。



【調査の圏域】

中京都市圏の3県（愛知県、岐阜県南部、三重県北部）を調査の対象圏域としています。



対象市町村数	岐阜県南部	16市16町
	愛知県全域	37市15町2村 (名古屋市を含む)
	三重県北勢地域	5市5町
	中京都市圏	58市36町2村
対象面積	10,463km ²	
総人口	9,999千人	
5歳以上人口	9,485千人	

凡例	
■	第1回(S46)調査圏域
■	第2回(S56)調査で新たに加わった圏域
■	第3回(H3)調査で新たに加わった圏域
■	第4回(H13)調査で新たに加わった圏域
■	第5回(H23)調査で新たに加わった圏域
■	第2回(S56)調査のみで実施した圏域

※鈴鹿・亀山地域は第3回調査圏域には含まれていない。

【調査の対象者】

中京都市圏にお住まいの方のうちから無作為に選ばれた約45万世帯の構成員（5歳以上）の全員を対象とさせて頂き、約31万人（約14万世帯）の方から調査票を返送して頂きました。

【調査時期】

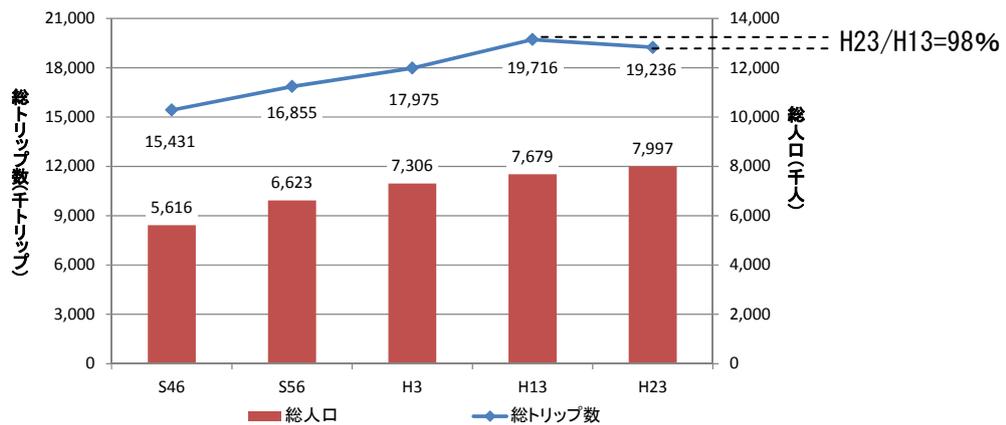
平成23年10月から11月に実施しました。なお、休日調査は愛知県（名古屋市含む）のみで実施しました。

【集計結果概要】

1. 都市圏居住者の総トリップ数の現状と推移

- 今回の調査では、中京都市圏（96市町村）内に居住する約950万人の総トリップ数は、約2,280万トリップとなりました。第1回調査圏域での推移をみると、調査を開始した昭和46年以降で、初めて減少しました。

今回の調査圏域内の総トリップ数：約2,280万トリップ/日
 第1回調査圏域内の総トリップ数：約1,920万トリップ/日

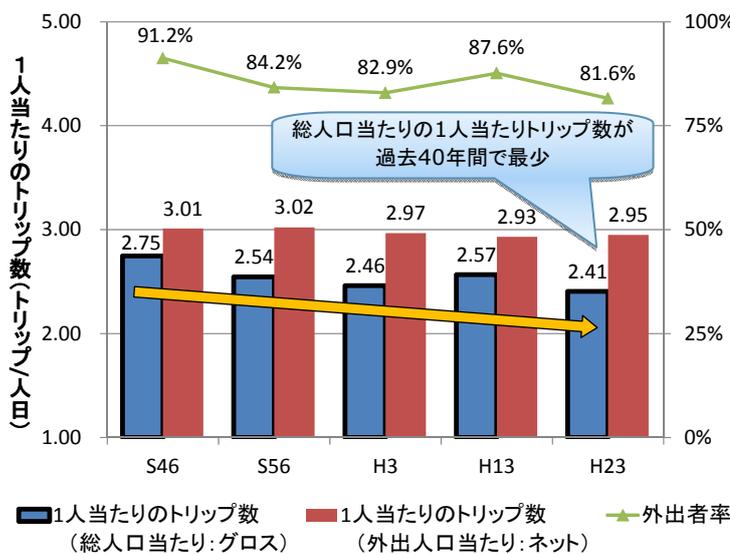


都市圏人口（5歳以上）及び総トリップ数の推移 【第1回調査圏域での推移】

注：このグラフで示す総人口は中京都市圏内に居住する5歳以上人口

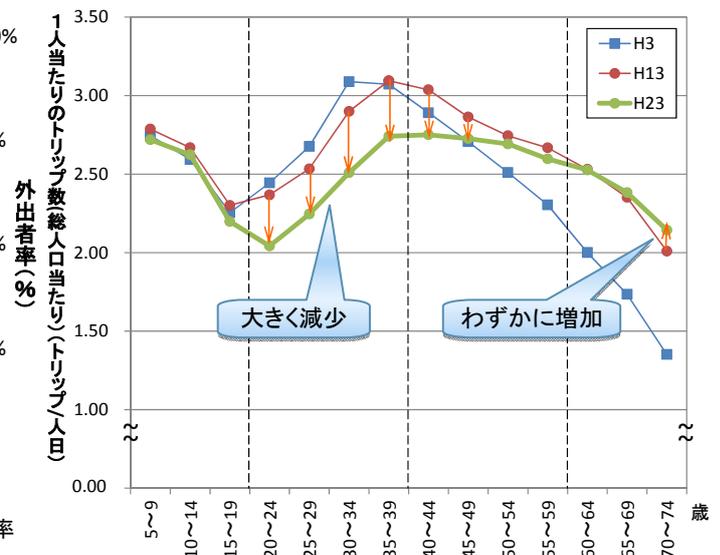
2. 1人当たりトリップ数の現況と推移

- 1人当たりのトリップ数は、40年間で最小となっています。年齢階層別にみると、20～40歳代が大きく減少し、65歳以上が僅かに増加しています。
- 総人口1人当たりのトリップ数の増減は、外出者率の増減と関連している傾向がみられます。



都市圏総人口1人当たりトリップ数・外出者率の推移
 【第1回調査圏域での推移】

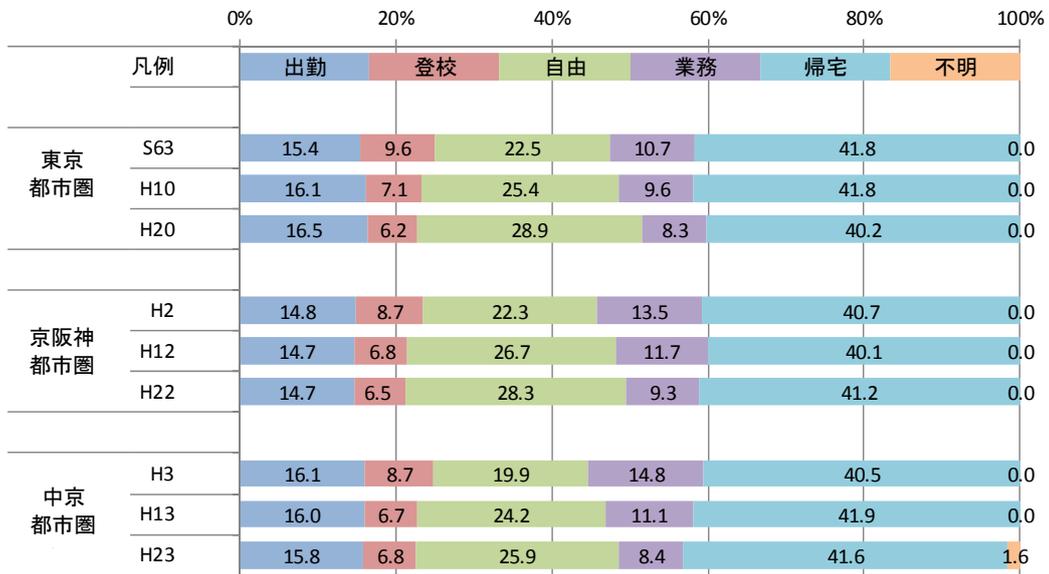
注：このグラフで示す総人口は中京都市圏内に居住する5歳以上人口



年齢階層別の1人当たりトリップ数
 (総人口当たり: グロス) の推移
 【第3回調査圏域での推移】

3. 交通目的からみた人の動き

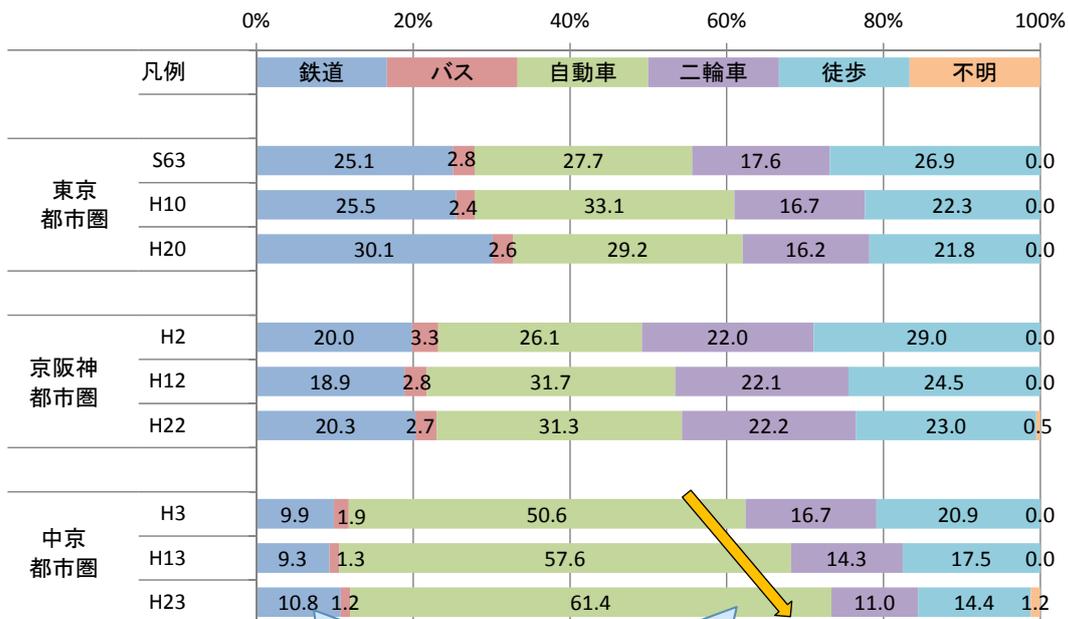
- 交通目的の構成の推移をみると、他都市圏（東京、京阪神）と同様に中京都市圏でも業務目的トリップが減少し、自由目的トリップが増加しています。



目的構成比の推移 【第3回調査圏域での推移】

4. 交通手段からみた人の動き

- 中京都市圏では、他都市圏と比べて自動車利用割合が高いことが特徴となっています。手段別利用割合の推移をみると、自動車利用の増加と徒歩、二輪車利用の減少が顕著です。



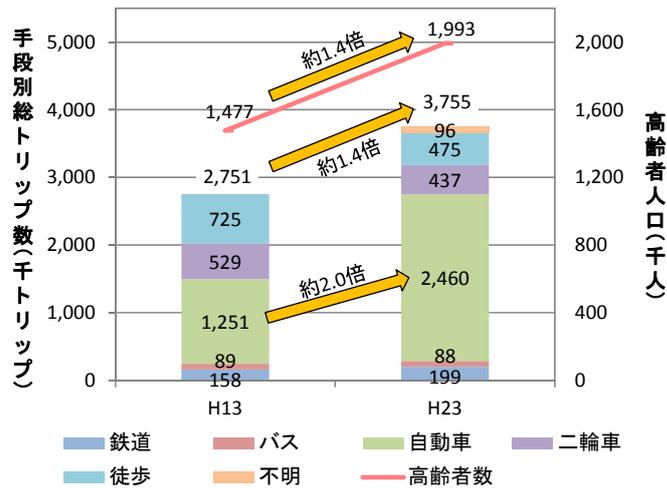
鉄道の利用割合は平成13年に比べ1.5ポイント増加

・自動車の利用割合は増加傾向、また東京・京阪神の約2倍

手段別利用割合の推移 【第3回調査圏域での推移】

5. 高齢者の移動実態

- 高齢者の10年前からの総トリップ数の伸びは高齢者人口の伸びと同程度の比率（約1.4倍）で増加しています。そのうち、自動車利用のトリップ数は、約2.0倍に増加しています。

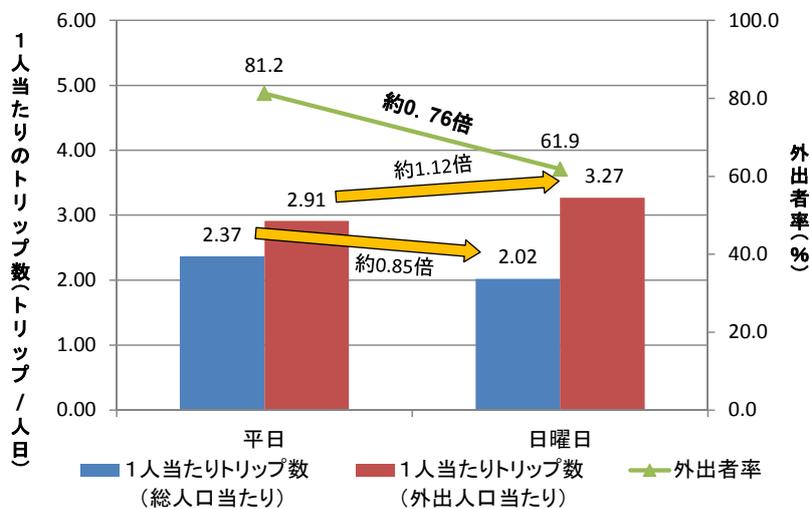


高齢者人口と代表交通手段別総トリップ数の推移 【第4回調査圏域での推移】

注：高齢者人口は中京都市圏内に居住する65歳以上人口

6. 日曜日交通の実態（愛知県（名古屋市を含む）居住者の集計値）

- 日曜日の外出者率は平日の約0.76倍です。その一方で、外出者1人当たりトリップ数は平日の値より大きく、日曜日に外出した人は多くの移動を行っている様子がみられます。



1人当たりトリップ数・外出者率の平日・日曜日比較 【第5回調査圏域での比較】

注：日曜日調査を実施した愛知県（名古屋市を含む）居住者の集計値
 ここでの総人口とは調査対象とする5歳以上人口